

- 地方創生の切り札である農林水産業・観光業の潜在力を引き出し、競争力ある成長産業に育てあげる必要
- 生産コストの引き下げ、多様な販売チャネルの確保、生産性向上に向けた民間ノウハウの活用促進、農地・森林の所有・利用の見直しなど、構造改革が必要。また、特定地域に集中する旅行者を全国に分散・拡大させ、観光地域づくりを促進することが重要
- 商工会議所は、農商工連携等による新商品開発と展示・商談会への参加・開催促進による販路拡大への取り組み等を強化・拡大

## 成長に必要な対策・構造改革

### 農林水産業の成長産業化

#### ◆農業の成長産業化、農地の集約化・大規模化による生産性の向上

- 耕作放棄地の課税を強化するなど、農地の所有・利用に関する制度の抜本的な見直しが必要。
- 農業生産法人の民間企業構成員比率を50%超にするなど、農業における企業の経営を拡大するための規制・制度改革が必要。

#### ◆林業の再生

- 山林の権利登記の義務化、隣接地との境界確認の根拠となる地籍調査の徹底等、所有・利用に関する制度の見直しが必要。
- 道路網などの必要なインフラ整備、組合等による施業・生産等の共同化、物流の大ロット化などの集約化や効率化が必要。

#### ◆水産業の振興

- 生産・経営の共同化促進と、HACCP対応の漁港の施設整備や冷凍冷蔵施設、加工処理施設、荷さばき施設等の省エネ・省人化など、高度化に対する支援の強化が必要。

### 観光振興

#### ◆旅行者を全国各地に分散・拡大、規制緩和や経営革新による観光イノベーションの推進

- 特定都市・地域に集中する外国人旅行者を全国各地に分散・拡大させることが必要。日商が昨年5月に提言した「交流拠点都市」（地域への旅行者の分散の核となる都市）を、政府が進める広域観光周遊ルートや観光立国ショーケースで選定した都市の中から指定していただきたい。
- 東アジアのみならず、欧米などからの誘客を進め、安定的な訪日外国人客数と旅行消費額の確保が必要。
- 官民連携による休暇取得キャンペーン等、観光需要の平準化に向けた取り組みを強化する必要。
- 国による観光関連基礎データの一元的な整備と提供が必要。
- 河川や港湾、歴史的建造物等の未利用資源の活用促進に向けた規制緩和や、民泊などの新たなニーズに対応した観光関連法制度の整備が必要。
- 地域における観光マネジメントの推進と二次交通・宿泊施設等観光インフラ整備を促進すべき。
- 観光庁と関係府省庁の連携強化によるニューツーリズムの推進、KPIの設定等を通じた観光施策の進捗状況の見える化、ワンストップの相談・情報提供体制の構築が必要。

### サービス業の生産性向上

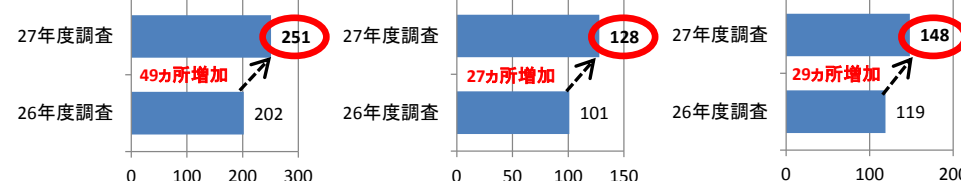
#### ◆中小企業の8割を占めるサービス産業の活性化・生産性向上が不可欠

- 既存事業の見直し、IT化、設備投資（IoT導入等）など、中小企業の経営力強化に係る取り組みの後押し、地域の中小・小規模企業支援体制整備の一層の推進。
- 設備投資や賃上げの原資となる収益を改善するための、中小・小規模企業における取引価格の適正化の促進。

## 商工会議所の具体的な取り組みを強化・拡大

### 商工会議所と農林水産業団体との連携状況

#### ◆農業協同組合（JA）の会員加入状況 ◆林業団体の会員加入状況 ◆水産業団体の会員加入状況



出所：「商工会議所と農林水産業団体との連携状況等に関する実態調査」（平成27年1月） / 「商工会議所の現状に関する調査」（平成27年8月）

#### ◆コメ偏重脱却に向け冷凍枝豆を商品化（秋田）



季節に左右されない出荷体制を確立

#### ◆県産材を活用し、解体可能なオフィスを開発（鹿沼）



ハイブリッドオフィス空間システム

#### ◆漁業協同組合と共同で新名物を開発（枕崎）



不安定な魚価と燃料費のリスク低減のため新商品を開発

#### ◆ゼロとの連携協定に基づき、海外バイヤーと商談会（帯広）



シンガポール・タイ・米  
国・香港・マカオのバイ  
ヤーを招き、一次産  
品初の商談会を開催

#### ◆商工中金と連携し、筑後地域6商工会議所地区の物産展、バイヤー求評会（久留米）



展示販売形式の物産展と新商品を求める  
大手百貨店等のバイヤー求評会を同時に  
開催

### 観光振興は「広域連携」がカギ

#### ◆広島湾域の特性を活かした体験型修学旅行（広島）



商工会議所と広島湾  
地域の市町村が連携  
して体験型修学旅行  
の受入を促進

### サービス業の生産性向上を支援

#### ◆英語のHPで旅館の平日稼働率2割増（別府）



商工会議所が支援し  
て英語HPを開発した  
旅館では、訪日外国  
人客が増え平日の稼  
働率が2割増に

# 【参考】各地商工会議所の農商工連携による高付加価値化・新商品開発等の推進

## 地域力活用新事業∞全国展開プロジェクト

中小企業庁の補助を得て、全国市場をターゲットに、地域資源を活用した新たな特産品や観光商品の開発を総合的に支援。平成18年の開始から、全国商工会議所の経営指導員等が中心となり、**906のプロジェクトが実施**されている。このうち**食材を活用した特産品等の開発は約300**。

＜取り組み実績（累計906件）＞

|              |   |             |
|--------------|---|-------------|
| 平成18年度： 84件  | ／ | 平成19年度： 95件 |
| 平成20年度： 96件  | ／ | 平成21年度： 96件 |
| 平成22年度： 108件 | ／ | 平成23年度： 93件 |
| 平成24年度： 98件  | ／ | 平成25年度： 79件 |
| 平成26年度： 81件  | ／ | 平成27年度： 76件 |

**小樽商工会議所（北海道）**  
**＜しりべしの食材活用＞**  
 後志(しりべし)産の未利用果実を使った果実酒を皮切りに、「小樽美人」のブランド化を推進し、スイーツ等の商品開発が進む。また、小樽発の日帰りバスツアー「しりべしアグリツーリズム」の開発も進めている。果実酒は平成25年夏から昨年8月までの売上は累計で約2,400万円となっている。



**恵庭商工会議所（北海道）**  
**＜えびすかぼちゃでスイーツ開発＞**  
 恵庭市の代表的な特産物、えびすかぼちゃを使用したペストを開発。**規格外等で農協が引き取らないえびすかぼちゃを加工し、かぼちゃプリン、スイートポテト、かりんとう饅頭**といったスイーツを次々に生み出す。



**美幌商工会議所（北海道）**  
**＜豚醬まるまんな、アスパラスープ＞**  
 地元高校生が**規格外の地元野菜を餌に飼育した豚から日本初となる醬油を開発**。平成24年からの販売数は、約14,000本にのぼる。現在では、市内の飲食店等でこの豚肉醬油を活用したオリジナル商品の開発が進められている。また、**約50戸の生産者と連携し、販売に不要な切り下を加工したアスパラを使ったうどんの販売をスタート**している。



**新潟商工会議所（新潟県）**  
**＜プチヴェールを活用し新作菓子・パンを開発＞**  
 商工会議所、JA、新潟薬科大学が連携し、健康野菜プチヴェールを活用した菓子、パンを製作。年間売上は、約1,500万円。



**弘前商工会議所（青森県）**  
**＜りんごを地域資源に特産品開発を推進＞**  
 津軽の完熟りんごを原料に、丁寧に琥珀色に濃縮させた果汁を独自の技術で発酵させ、さらにじっくりとオーク木樽で熟成させたりんご酢を開発。また、**不要となったりんごの木を活用し**食器等のテーブルウェアを開発、年間の売上は800万円程度。



**小山商工会議所（栃木県）**  
**＜かんびょううどんの開発＞**  
 生産量日本一を誇る地元栃木産かんびょうを活用し、粉末化したかんびょうと地元産小麦を使ったうどんを開発。年間約800万円の売上で、**かんびょうの生産事業者の育成支援にもつなげている**。パッケージデザインが海外のデザイン賞を受賞するなど、うどん本体以外の面でも高い評価。また、**小山市桑地区の桑畑を守り育てるために、「桑の葉」の栄養成分の分析を行い、「桑の葉」を活用した加工食品の開発を進めている**。



**鹿沼商工会議所（栃木県）**  
**＜規格外農産物の活用＞**  
**傷や規格外、売れ残り等で処分される果実や農産物を加工食品として有効活用し、新しいスイーツや菓子などを開発した**。また、同所では、地域の木材を活用し、専門家・デザイナーを交えながら椅子や桶などのバス用品をはじめ、木材加工品の開発を進めている。



**大川商工会議所（福岡県）**  
**＜特産品「あまおう」を使った紅茶を開発＞**  
 大川の特産品であるイチゴ「あまおう」を利用して、生産農家との二人三脚でキュール酒を開発し、大ヒットさせた。その一方で、その際に**大量のイチゴが破棄されていたことから、このイチゴを活用して、オリジナルのイチゴの紅茶を誕生**させた。



**和歌山商工会議所（和歌山県）**  
**＜和歌山ジンジャーエールの開発＞**  
 地元特産の生姜を活用し、JAわかやま等と「和歌山ジンジャーエール」を共同開発。これまでに4種類を販売しており、平成22年に発売された第1弾の「生姜丸しぼり」は年間100万本の大ヒットとなり、全日空の機内販売にも採用された。



**町田商工会議所（東京都）**  
**＜農工連携によりメロンの水耕栽培に成功＞**  
 町田商工会議所の**工業部会**が域内外の産学官農と連携し農業に参入。**部会メンバー(株式会社)を中心に高度な水流技術を使うメロンの水耕栽培に成功し、新たな地域農作物ブランドとして商工会議所が商標登録**（まちだシルクメロン）。



**厚木商工会議所（神奈川県）**  
**＜新名産品「かばす」を使用した商品開発＞**  
 地元の東丹沢七沢温泉郷で採れた新名産品の「かばす」を使用し、かばす酒、スパークリングかばす酒、かばす発泡酒、和風マドレーヌ、かばすレアチーズ大福、かばすゼリーなど、多数の商品を開発。



**伊万里商工会議所（佐賀県）**  
**＜伊万里食材から生まれたクッキー＞**  
 伊万里産の梨、伊万里産の黒米、佐賀のブランドイチゴ「さがほの香」を活用した、「ふんわりくっさい」を開発。このほかにも、伊万里のねぎを使ったネギスープや伊万里牛ジャーキー、伊万里牛しぐれ煮など、地域の農畜産資源を活用した商品開発を積極的に推進している。



**岡崎商工会議所（愛知県）**  
**＜地産地消で地域経済を活性化＞**  
 食料の安定確保、健康で安全な食材の供給、輸送エネルギー削減などを目的に地産地消を推進。毎月第1・第3土曜日に「おかげさうファーマーズマーケット（朝市）」を定期開催するほか、地元農産物を使用する飲食店、加工食品をおかげさう地産地消セレクションとして認定している。



**萩商工会議所（山口県）**  
**＜知られざる特産魚種を高級食材に＞**  
 これまで地元での流通が中心だった**幻の魚「金太郎」(ヒメジ)を使い、行政や漁業者など地元関係団体が一体となって、新たな商品開発に着手**。ヒメジと似た魚がフランス料理で利用されていることに着目し、地中海風に味付けしたオイル漬けを開発した。



**大和高田商工会議所（奈良県）**  
**＜地域内でサプライチェーンを構築＞**  
 大和高田市一帯は江戸時代、綿栽培が盛んで大和木綿の産地として栄えていた。そこで、**耕作放棄地を利用して綿栽培を復活させ、有機栽培・手摘みした綿を素材に染加工や化学処理をせず自然のままの風合いを活かした繊維製品を開発。綿の栽培から製品開発までの域内サプライチェーンを構築**。



**宮古島商工会議所（沖縄県）**  
**＜みやー総合マーケティング事業＞**  
 宮古島の健康食材であるパパイヤ、ローゼル、宮古島山羊肉を使用したカレーなどの新商品を開発。

